

インパクトコンソーシアム データ・指標分科会 第2回ディスカッションメンバー会

データ・指標にかかるニーズについて

みずほフィナンシャルグループ

2024年12月26日

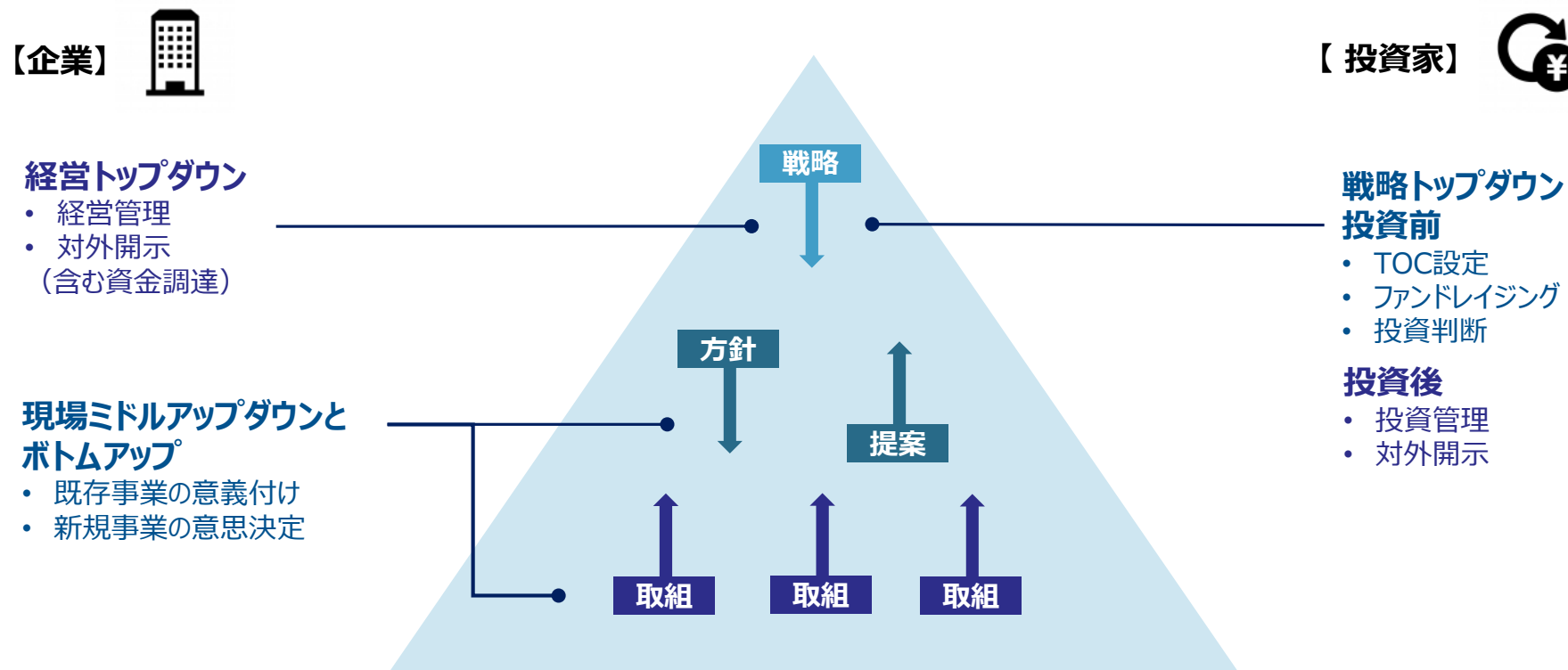
ともに挑む。ともに実る。



データ・指標にかかるニーズ（これまでの議論の整理）

Discussion Purpose
Only

- IMMには、①企業主体・個社レベルと②投資家主体・ポートフォリオレベル、という2つの異なるレイヤーが存在※
- ①企業のIMMには、経営トップダウンでの自社の価値創造プロセスの進捗管理、投資家への対外開示と、現場ボトムアップでの取組意義の訴求目的あり。特に、現場の自律的な取り組みを促すためにもインパクト指標やアウトカムデータへのアクセス要
- ②投資家のIMMは、投資戦略の実践に向けたトップダウン型。インパクト指標ならびにアウトカムの評価のためのセクター、業界のベンチマークデータへの期待あり



出所：みずほフィナンシャルグループ作成

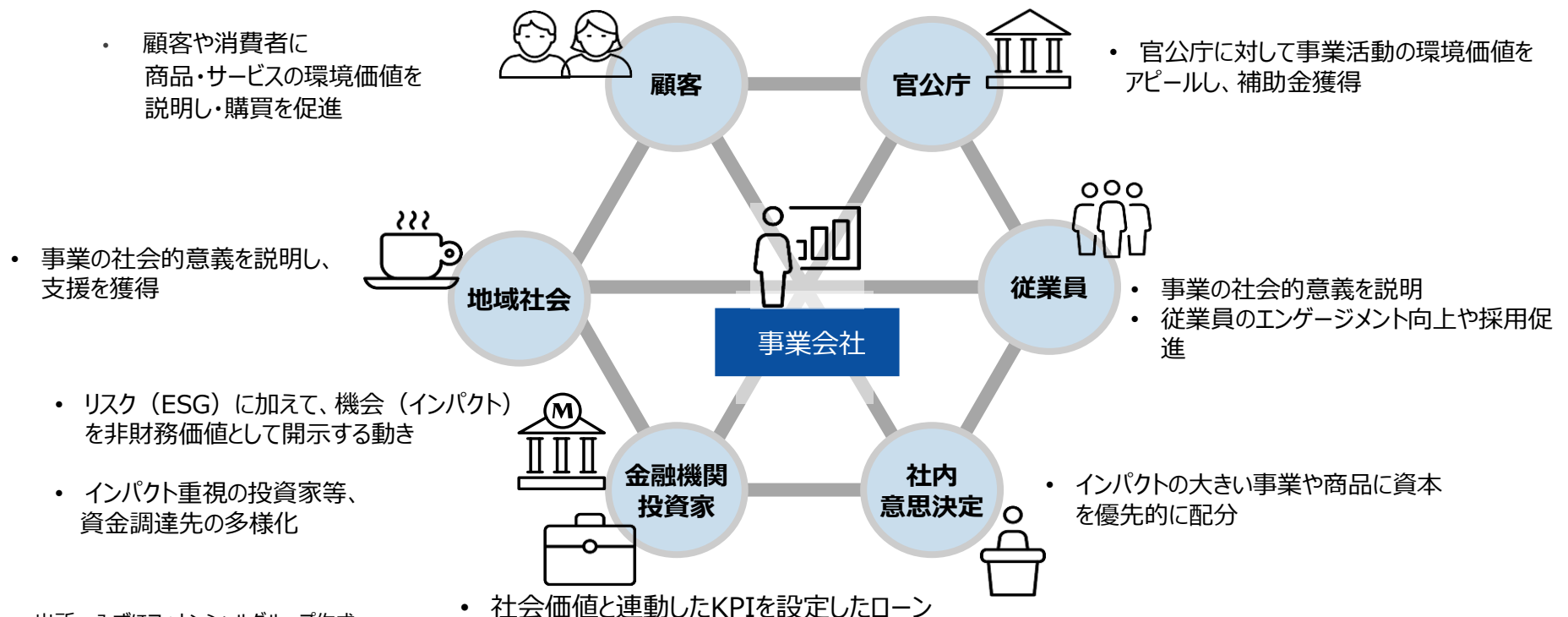
※ニッセイアセットマネジメント 林氏 インパクトコンソーシアム データ・指標分科会プレゼンテーションより

ご参考：インパクト評価・開示の対象と目的（企業目線）

Discussion Purpose
Only

- インパクト評価はさまざまなステークホルダーに対して事業意義を説明することで経済的価値の追求が図れると理解
 - 顧客・官公庁・従業員へのアピールし、それぞれ購買・補助金・エンゲージメントの向上に活用する事例あり
 - また、社内の意思決定においても、インパクトの大きい事業や商品に優先的に資本を配分することが考えられる
 - さらに、社会的インパクトも追及するインパクト志向の投資家・金融機関から調達することも考えられる

インパクト評価・開示の対象と目的（仮説）



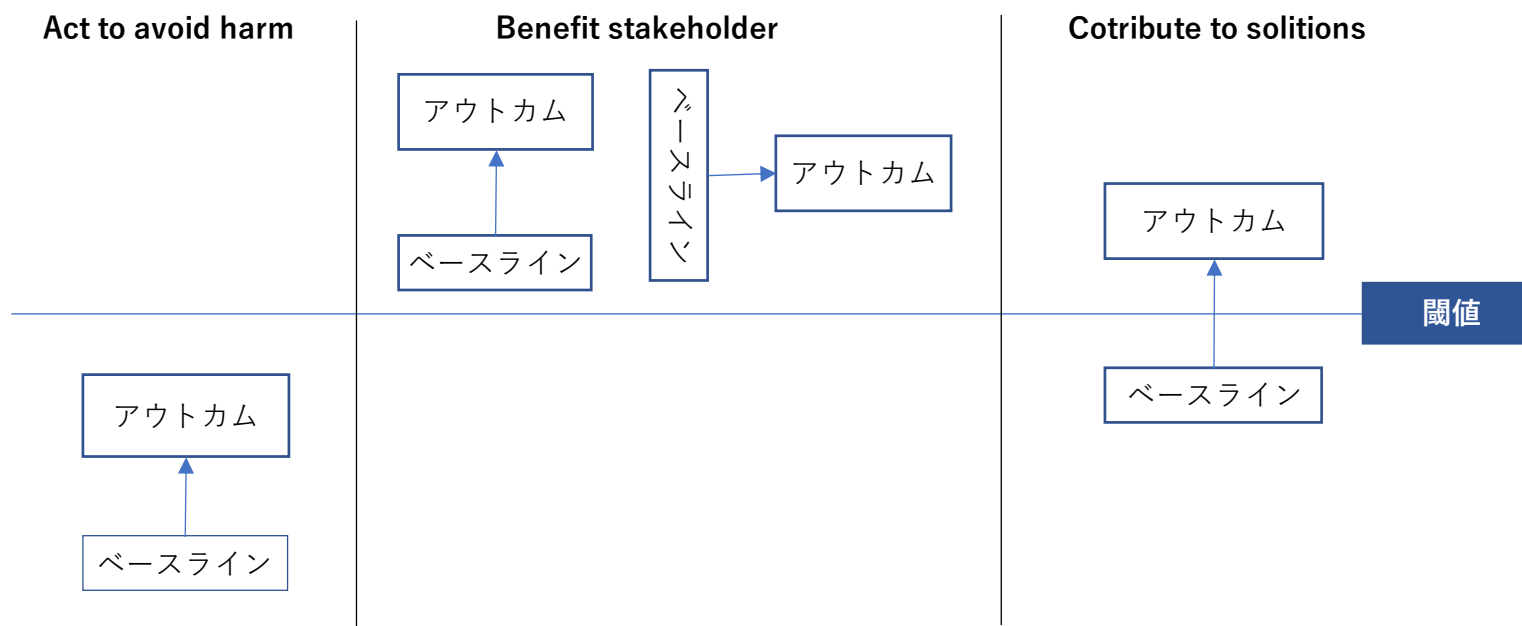
出所：みずほフィナンシャルグループ作成

データ・指標にかかるニーズ（測定・評価の観点）

Discussion Purpose
Only

- いずれの場合においても、**アウトカムの変化がどの程度であったのか、そのインパクトはマテリアルな改善をもたらすのかの判断が必要**であり、**データベースで重要となる共通要素は以下の通り**
 - インパクトテーマ毎のアウトカム指標と測定するためのデータ（日本固有の課題に係るデータ）
 - ベースライン、閾値、目標値を設定するために必要なデータ
 - 加えて、インパクト指標の設定方法、データの収集・集計方法についてのガイドラインにも期待あり

インパクト：アウトカムの変化（インパクトのABC）



出所：Impact Frontiers

データ・指標にかかるニーズ（IMMプロセスでの整理）

Discussion Purpose
Only

- IMMでインパクトテーマ毎のアウトカム指標と測定するためのデータ、ならびにベースライン、閾値、目標値を設定するために必要なデータが必要となるプロセスは以下の通り。**データベースは下記に必要なデータのマッピングやアクセスを目指す方向性**

IMMプロセス		関連ツール
計画		
目的の設定	解決を目指す 社会課題 や生み出したい 社会的価値 を特定	SDG基準インパクト 等
事業・投資戦略の策定	社会課題解決や社会価値創造にいたる 道のり と 必要な資源 について整理し、事業目的を達成する上で重要となる 具体的な目標・成果（アウトカム） を 確化・特定 。また、 ステークホルダー や 自社 にとっての該当インパクトの 相対的な重要性 を分析し、理解する	ロジックモデル セオリー・オブ・チェンジ 等
事業・投資計画と評価計画の策定 （事前のインパクト測定、評価）	戦略実現のために 必要なアクションを設定 するとともに、 評価デザイン※を決定 し、絞り込んだ アウトカムに対してこれらを測定するための指標 及び 成否を判断するためのベースラインと閾値を特定し 目指すべき水準を検証 。 ※事前・事業、時系列、一般指標、マッチング、ランダム等	インパクトのABC 5ディメンション 等
実践		
事業・投資実践	事業・投資の実践ならびにアウトプットの確認	—
評価・分析		
インパクト測定・評価	アウトカムにつきデータを集集 。決定した評価デザイン※従い、 ベースラインからの変化を可視化し、その結果を解釈 する。また、 ステークホルダーや自社 にとっての該当インパクトの 相対的な重要性 を分析し、理解する	インパクトのABC 5ディメンション 等
報告・活用・検証		
対外開示やIMMプロセス検証	インパクト測定・評価・価値化結果の報告。IMMプロセスの随時検証	OPIM 等

データ・指標にかかるニーズ（IMMプロセスでの整理）

Discussion Purpose
Only

- IMMでインパクトテーマ毎のアウトカム指標と測定するためのデータ、ならびにベースライン、閾値、目標値を設定するために必要なデータが必要となるプロセスは以下の通り。**データベースは下記に必要なデータのマッピングやアクセスを目指す方向性**

IMMプロセス		関連ツール
計画		
目的の設定	解決を目指す 社会課題 や生み出したい 社会的価値 を特定	SDG基準インパクト 等
事業・投資戦略の策定	社会課題解決や社会価値創造にいたる 道のり と 必要な資源 について整理し、事業目的を達成する上で重要となる 具体的な目標・成果（アウトカム） を 確化・特定 。また、 ステークホルダー や 自社 にとっての該当インパクトの 相対的な重要性 を分析し、 理解 する	ロジックモデル セオリー・オブ・チェンジ 等
事業・投資計画と評価計画の策定 （事前のインパクト測定、評価）	戦略実現のために 必要なアクションを設定 するとともに、 評価デザイン※を決定 し、絞り込んだ アウトカムに対してこれらを測定するための指標 及び 成否を判断するためのベースラインと閾値を特定し 目指すべき水準を検証 。 ※事前・事業、時系列、一般指標、マッチング、ランダム等	インパクトのABC 5ディメンション 等
実践		
事業・投資実践	事業・投資の実践ならびにアウトプットの確認	—
評価・分析		
インパクト測定・評価	アウトカムにつきデータ を 収集 。決定した評価デザイン※従い、 ベースラインからの変化を可視化し、その結果を解釈 する。また、 ステークホルダーや自社 にとっての該当インパクトの 相対的な重要性 を分析し、 理解 する	インパクトのABC 5ディメンション 等
報告・活用・検証		
対外開示やIMMプロセス検証	インパクト測定・評価・価値化結果の報告。IMMプロセスの随時検証	OPIM 等

データ・指標にかかるニーズ（IMMプロセスでの整理）

Discussion Purpose
Only

- IMMでインパクトテーマ毎のアウトカム指標と測定するためのデータ、ならびにベースライン、閾値、目標値を設定するために必要なデータが必要となるプロセスは以下の通り。**データベースは下記に必要なデータのマッピングやアクセスを目指す方向性**

IMMプロセス			関連ツール
計画	目的の設定	解決を目指す 社会課題 や生み出したい 社会的価値 を特定	SDG基準インパクト 等
	事業・投資戦略の策定	社会課題解決や社会価値創造にいたる 道のり と 必要な資源 について整理し、事業目的を達成する上で重要となる 具体的な目標・成果（アウトカム） を 確化・特定 。また、 ステークホルダー や 自社 にとっての該当インパクトの 相対的な重要性 を分析し、理解する	ロジックモデル セオリー・オブ・チェンジ 等
	事業・投資計画と評価計画の策定 （事前のインパクト測定、評価）	戦略実現のために 必要なアクションを設定 するとともに、 評価デザイン※を決定 し、絞り込んだ アウトカムに対してこれらを測定するための指標 及び 成否を判断するためのベースラインと閾値を特定し 目指すべき水準を検証 。 ※事前・事業、時系列、一般指標、マッチング、ランダム等	インパクトのABC 5ディメンション 等
実践	事業・投資実践	事業・投資の実践ならびにアウトプットの確認	—
	評価・分析	アウトカムにつきデータを集集 。決定した評価デザイン※従い、 ベースラインからの変化を可視化し、その結果を解釈 する。また、 ステークホルダーや自社 にとっての該当インパクトの 相対的な重要性 を分析し、理解する	インパクトのABC 5ディメンション 等
報告・活用・検証			
対外開示やIMMプロセス検証			OPIM 等

トップ
ダウン
の
始点

ボトム
アップ
の
始点

アウトカム指標
特定に必要な
参照DB

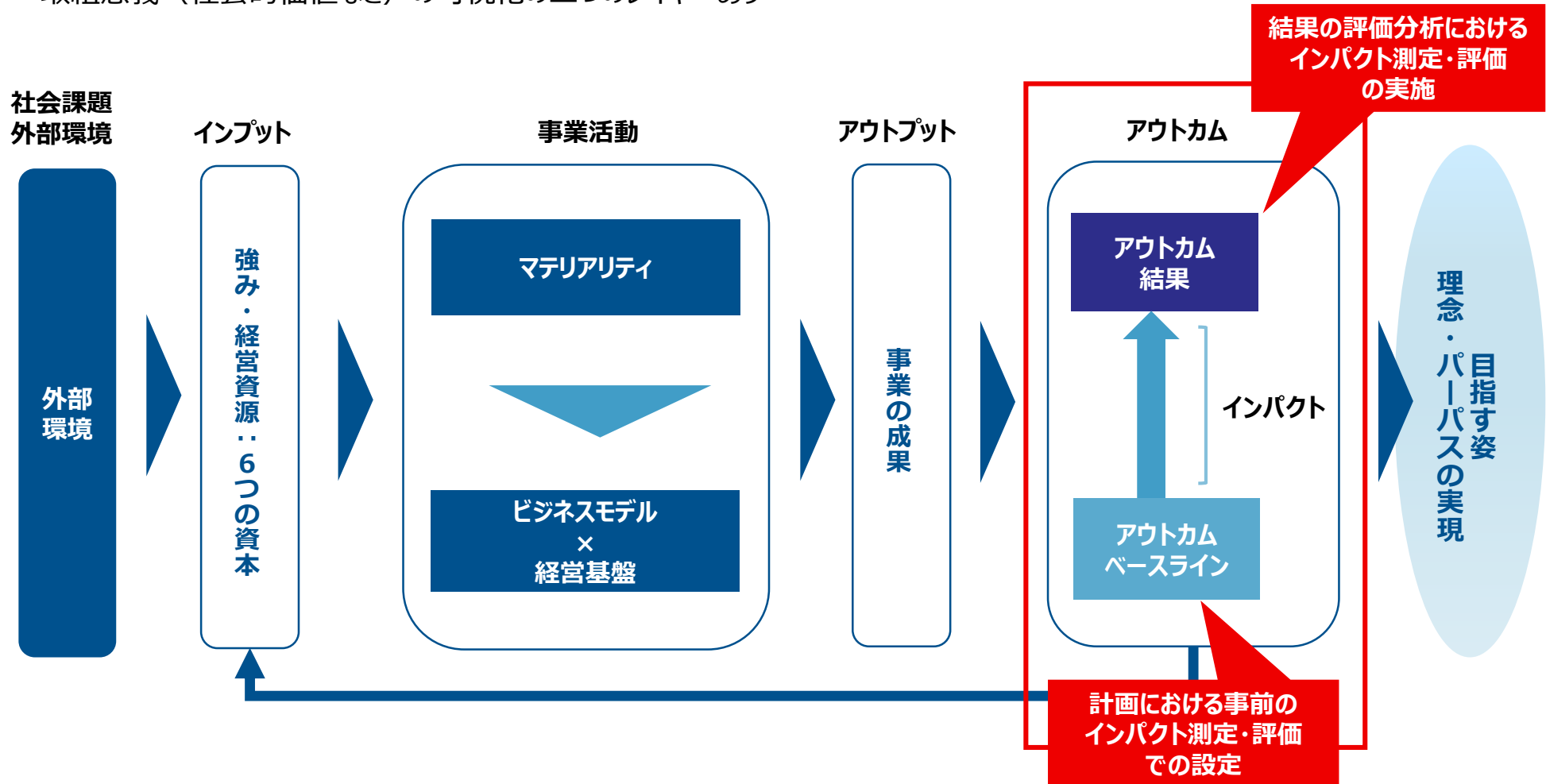
アウトカムの
ベースラインや
閾値特定に
必要な参照DB

アウトカムの
ベースラインや
閾値特定に
必要な参照DB

ご参考：IMMの価値創造プロセスでの位置づけ

Discussion Purpose
Only

- 価値創造プロセスにおけるIMM組み込みも、目指す姿からバックキャストしたトップダウンでの取組と、ボトムアップでの既存事業の取組意義（社会的価値など）の可視化の二つのレイヤーあり



出所：みずほフィナンシャルグループ作成

ディスクレーマー

© 2024 株式会社みずほフィナンシャルグループ

本資料には、将来の業績および計画等に関する記述が含まれています。こうした記述は、本資料作成時点における入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、かかる記述および仮定は将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。また、将来の見通しに関する事項はその時点での株式会社みずほフィナンシャルグループおよびグループ会社の認識を反映しており、リスクや不確実性等が含まれています。これらのリスクや不確実性の原因としては、世界的な社会人口動態や経済動向、エネルギー価格、技術革新、気候条件や気象現象、政府の政策や法規制の変更、その他様々な要因があげられます。これらの要因により、将来の見通しと実際の結果は必ずしも一致するものではありません。株式会社みずほフィナンシャルグループおよびグループ会社の財政状態および経営成績や投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項については、本資料のほか、有価証券報告書、決算短信等の本邦開示書類や米国証券取引委員会に提出した最新のForm20-F年次報告書等の米国開示書等、株式会社みずほフィナンシャルグループが公表した各種資料のうち最新のものをご参照ください。株式会社みずほフィナンシャルグループは、業績予想の修正等将来の見通しの変更に関する公表については、東京証券取引所の定める適時開示規則等に基づいて実施します。したがって、最新の予想や将来の見通しを常に改定するわけではなく、またその責任も有しません。